

担い手通信

2023
vol. 4

海外バイヤーが欲しい日本の農産物は？

WAGYU 根強い人気

香港・フードエキスポPROで聞く

「欲しい日本の農畜産物は何?」。香港で8月中旬に開かれたフードエキスポPROで、世界各国のバイヤーに尋ねてみました。品目別で回答が多かったのは、サツマイモと和牛です。サツマイモは用途の広さと甘さで人気。和牛のニーズは銘柄まで浸透していました。他国産にはない品質・特長が評価され、生食できる鶏卵やトウモロコシへの注目度も高かったです。

サツマイモ 甘さが好評

各国のバイヤーが熱視線を送ったのが日本のサツマイモです。タイの食品卸は「日本産にしかない甘さとねっとりとした食感で、とりこになる人が多い」と指摘します。自身は九州産がお気に入りといいます。産地や品種に対する関心の高まりもうかがえました。

ミシュランガイドに掲載される香港のレストランでは、サツマイモを鶏肉と一緒に煮込んで提供します。「品質の高い日本産を重視している」（同店のバイヤー）と明かしました。

家庭向けも好調です。香港のスーパーでは「べにはるか」などが1袋170～360円程度で山積みで売られています。エキスポ会場で関東のメーカーは

「香港のバイヤーから家庭で調理しやすい小ぶりなサツマイモを求める声があった」といいます。

最も得票数が高かった和牛では、銘柄で探すバイヤーも多いです。「鹿児島黒牛を見に来た」（ロンドンの食品卸）、「神戸牛と並ぶような他の和牛を探している」（ポーランドの食品商社）という声がありました。「和牛は既に特別な地位を確立している」（バイヤーら）。今後は銘柄でもう一步、差別化をする動きが推察されます。

日本にしかない特長を持った産品へのニーズは高いです。「生食できる鶏卵は他にない」（香港イオンのバイヤー）、「世界を見渡しても食べられる花は日本産くらい」（マカオの輸入業者）と評価します。

エキスポ当日、海外のバイヤーらが驚いたのは、生食もできる青森県産のトウモロコシでした。世界的に生食できるものは珍しいです。日本産の品質や価値に商機が広がっています。



農水省によると、2022年の農林水産物・食品の輸出額は、前年比14%増の1兆4,140億円でした。品目別では、農畜産物の伸び幅が同1、2割増と堅調です。23年は東京電力福島第1原子力発電所の処理水放出の影響で伸び悩む懸念がありますが、日本産の品質を求める声は確かにあります。

(日本農業新聞 2023年9月12日)

海外のバイヤーが注目する日本の農産品(複数回答)

順位	品目	得票数	主な理由
1	和牛	7	脂の香りが上質。レストランに不可欠
2	サツマイモ	6	調理方法が多様で、家庭向けで人気
2	抹茶	6	日本食のお供に。デザートに味付け
4	米・パックご飯	5	すしで重要な舌触りに優れる
5	鶏卵	4	生食ができる安心感とブランド力
5	日本酒	4	アッパー層(富裕層)に人気が高い

フードエキスポPROに参加したバイヤーへの聞き取りを基に作成。延べ回答数は56



(左から)香港のスーパーで山積みで売られていたサツマイモ、和牛を売り込むブース